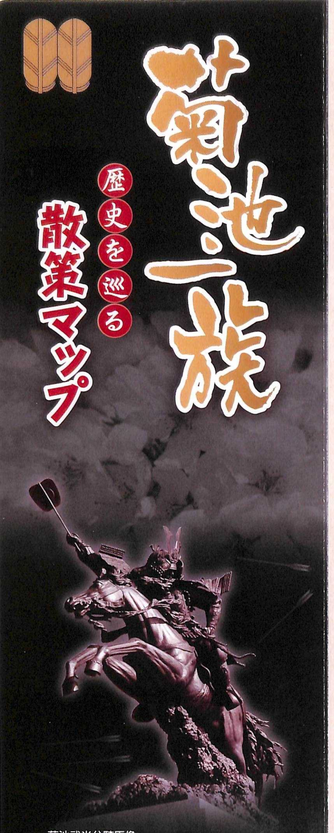
菊池一族

歴史を巡る散策マップ



菊池武光公騎馬像

15代武光は、南北朝時代に南朝方として室町幕府と戦い、一時は九州を平定するなど活躍しました。菊池市のシンボルとして建てられた騎馬像は、日本有数の大きさを誇ります。

肥後の名門 一族の絆
日本史上に足跡を残す

菊池神社

守山城の本丸跡にある神社。主祭神は12代武時、13代武重、15代武光で、武政以下26柱が祭祀されています。明治3年菊池一族を特天で明治天皇の命により創建され、周囲一帯は桜づつじの名所となっています。

菊池一族のはじまり

菊之池跡

大宰府の高官藤原則隆が菊池に下向し、菊池の地名をとって菊池氏を名乗ったのがはじまりと言われています。(年表㊀)

菊池一族は平安時代から室町時代後半までの約450年に亘り、菊池地域を中心として活躍した肥後最大の豪族です。最も隆盛を誇ったのが南北朝時代で、15代武光は後醍醐天皇の子、懐良(かねなが)親王を征西将軍にいただき、北朝方に勝利し九州を統一しました。

「源氏物語」に登場

菊池氏の先祖は、古くから肥後の菊池地方に勢力を持っていた藤原姓の人々です。王朝時代には、朝廷の九州統治機関であった大宰府で大監という高い役職にありました。紫式部の「源氏物語」にも肥後の大監という人物が登場し、「族広く」と菊池氏が肥後の国に広く勢力を持っていたことを伝えています。

蒙古襲来に出陣、撃退

菊池一族は源平合戦や元寇など日本史上の有名な戦いにも参戦し、鎌倉時代末期の2度にわたる元寇では、竹崎季長が自らの活躍を描かせた「蒙古襲来絵詞」の中に、10代武房が描かれています。(年表㊁)

もうこしゅうらいえことば
蒙古襲来絵詞

袖が浦の別れ

勅命により鎮西探題を攻める際、味方の裏切りに遭い、討死を覚悟した12代武時は、共に戦うと主張する息子、武重に、落ち延びて再起すべしと説得し別れます。この出来事を袖が浦の別れと呼び、菊池一族を偲ぶエピソードとして今に伝えられています。(年表㊂)

菊池千本槍

13代武重が足利尊氏の弟直義(ただよし)と箱根で戦った際、竹の先に短刀をつけさせ一斉に攻撃をかけて勝利しました。その後菊池に戻り刀鍛冶の延寿一族に千本の槍を作らせました。「菊池千本槍」は槍の元祖もいわれ、その後の合戦方法に大きな影響を与えました。(年表㊂)

五箇条の御誓文に影響

「寄合衆内談の事」は13代武重が作ったもので、一族団結のための三箇条です。日本でもっとも古い血判書とされ、「国務の政道は内談の議を尚すべし」の一文は明治天皇の五箇条の御誓文にも影響を与えたとといわれます。(年表㊃)

よりあいぶんのなりたちのこと
寄合衆内談の事

筑後川の戦い ～日本三大合戦の一つ～

1359年8月、福岡県西南部を流れる筑後川を挟んで、15代武光を大将とする南朝方と少弐(しょうに)氏を中心とする北朝方との間で合戦が繰り広げられ、南朝方が優勢のうちに戦いは終結しました。この戦いは、「闇が原の戦い」、「川中島の戦い」とともに日本三大合戦の一つとされています。(年表㋕)

九州統一

筑後川の戦いの後、1361年に、征西将軍懐良親王は15代武光を大将にして少弐・大友連合軍と戦い勝利。その後、大宰府に九州征西府を置きました。この後、九州の豪族は征西府に従い、九州の統一が図られました。(年表㋖)

「太平記」で大活躍

「太平記」は南北朝の乱世を壮大なスケールで描いた40巻からなる中世戦記文学の傑作です。11巻「筑紫合戦の事」に武時の討死、14巻「箱根竹下合戦の事」に武重の先陣、33巻「菊池合戦の事」、38巻「菊池、大友軍の事」では武光の激闘、活躍が鮮やかに描かれています。

肥後の文教菊池にあり

21代重朝は菊池の文教を高めるため、孔子堂を立て、学問を講究しました。また、1日で1万句を詠んだといわれる連歌の句会、菊池万句は当時の菊池の文化の高さを示しています。肥後の文化、学問の拠点としての礎は菊池氏によって作られたともいわれます。(年表㋗)

菊池万句

菊池十八外城

菊池一族は、守山城(16代武政築城とされる)を本城とし、本城を防衛するための拠点として、また地域を治める目的で多くの外城を設け、一族や重臣を配して城主とし、その任にあたらせました。外城は20以上あったといわれていますが、江戸時代の学者、浙江公正の著書「菊池風土記」のなかで「菊池十八外城」の言葉が用いられ、これが現在まで使用されています。

十八外城 じゅうはちとじょう

① 菊之城	菊池市深川	⑦ 黄金塚城	菊池市四町分	⑬ 台城	菊池市七城町台
② 古池城	菊池市出田	⑧ 掛幕城	菊池市原	⑭ 増永城	菊池市七城町砂田
③ 戸崎城	菊池市今	⑨ 市成城	菊池市原	⑮ 正光寺城	菊池市七城町加恵
④ 止林城	菊池市木庭	⑩ 鷹取城	菊池市星門	⑯ 馬渡城	菊池市七城町亀尾
⑤ 元居城	菊池市重味	⑪ 五社尾城	菊池市雪野	⑰ 打越城	菊池市七城町蘇崎
⑥ 葛原城	菊池市市野瀬	⑫ 神尾城	菊池市七城町水次	⑱ 亀尾城	菊池市七城町亀尾

A 聖護寺

12代武時に招かれた大智禅師により建立されました。大智禅師は、13代武重・14代武士、および菊池一族の人々の教導にあたり、菊池の精神文化の育成に大きな貢献をしました。

B 大円寺

14代武士は若くして家督を15代武光に譲り、出家して旅に出ます。その後菊池に戻った時に、大円寺の桜を見て歌を詠みました。境内にはその歌碑と、黒染めの桜と呼ばれる桜があります。

C 円通寺

初代則隆の夢に出た神のお告げによって、2代経隆を奉行として、観世音像を山城国から迎えたと伝えられており、その後も菊池一族の信仰の中心として繁栄しました。春には、シャクナゲが美しく咲き誇ります。

菊池神社境内

オプショナル・マップ(七城地区)

Copyright:熊本県・市町村電子自治体共同運営協議会

⑭増永城跡

別名を西郷城ともいい、初代則隆の息子、政隆が西郷太郎を名乗り、ここに城を構え、一帯を治めました。土塁や堀、井戸などの遺構が残っています。

西郷南洲先生祖先発祥之地碑

明治維新の偉人、西郷隆盛の祖先は、初代則隆の次男で、西郷太郎を名乗り分家した政隆であり、西郷隆盛も「菊池源吾」と名乗っていたことに因み、石碑が建てられています。

⑮亀尾城跡

別名、板井城の由来は、相良一族がこの地に入り、板井氏を名乗ったところから始まります。合志方面に対する重要拠点であり、天然の地形を利用した要害で、1379年「板井愚の戦い」では激戦が繰り広げられ今川了俊により落城しました。

亀尾城からの眺め

碧眼寺

20代為邦は17歳にして菊鹿となり肥後守護職を務め、才知に優れ、儒学・禅道の関義を極め、朝鮮、明国との交易を図り文武の名将といわれました。敷地内には為邦公の墓(分墓)があり、為邦画像をはじめ、遺品が残されています。

菊池氏二十四代

初代	則隆(のりたか)	9代	隆泰(たかやす)	17代	武朝(たけとも)
2代	経隆(つねたか)	10代	武房(たけふさ)	18代	兼朝(かねとも)
3代	経頼(つねより)	11代	時隆(ときたか)	19代	持朝(もちとも)
4代	経宗(つねむね)	12代	武時(たけとき)	20代	為邦(ためくに)
5代	経直(つねなお)	13代	武重(たけしげ)	21代	重朝(しげとも)
6代	隆直(たかなお)	14代	武士(たけし)	22代	能運(よしかず)
7代	隆定(たかさだ)	15代	武光(たけみつ)	23代	政隆(まさたか)
8代	能隆(よしたか)	16代	武政(たけまさ)	24代	武包(たけかね)

菊池一族の歴史

平安	1070	大宰府の高官 [1]藤原則隆 菊池に来る㊀
鎌倉時代	1274	[10]武房 元寇で、博多に出陣する(文永の役)
	1281	再度の蒙古襲来に一族で参戦する(弘安の役)い
	1333	[12]武時、探題邸を襲撃し討死(袖が浦の別れ)う
南北朝時代	1335	箱根・竹ノ下の戦いにおいて[13]武重「菊池千本槍」を発案え
	1336	武敏、足利軍と多々良浜(福岡)で戦うが敗れる
		武吉、湊川の戦いで楠正成らとともに自刃する
	1338	武重、「寄合衆内談の事」(菊池家憲)を定めるお
	1341	[14]武士、武重の死後、肥後守を継ぐ
	1345	[15]武光、合志幸隆から菊池城(菊之城)を奪還し家督継承
		武光、熊耳山正観寺を建て、菊池五山制を定める
	1348	懐良親王、征西将軍として菊池に入る
	1355	武光、懐良親王ら九州北部を抑えて、大宰府を占領
	1359	武光、懐良親王を奉じ、筑後川(大原)合戦で勝利か
	1361	懐良親王、大宰府に征西府を置く(全盛時代)き
	1362	武光、長者原の戦いで大友・少弐軍を破る
	1367	[16]武政、肥後守となって、守山城を築く
	1368	懐良親王、武光らと東上計画(上洛)を決行し失敗
	1372	今川軍に征西府占領され、武光ら高良山へ退く
	1375	[17]武朝、今川了俊軍を水島の戦いで破る
	1378	武朝、良成親王らとともに今川・大友軍を託麻原で破る
	1381	守山城、足利方の今川軍に攻められ落城する
	1392	武朝、菊池に帰り、改めて肥後守護となる
	1432	持朝、筑後守護職となる
	1472	重朝、隈府に孔子堂を建てる く
	1481	重朝、菊池で連歌一万句の会を催す
	1503	能運、城・隈部の助けをかりて、為光を破り、菊池に帰る
	1504	能運死去、菊池家正統絶える
	1511	詫磨武包が菊池氏を継いで肥後守護となる
	1520	武包、大友氏に追われて、菊池を去る

ウォーキングマナー

1. 交通ルールを守り、特に横に広がらないで一列で歩きましょう。
2. わき道があるところでは、立ち止まって左右の安全を必ず確認しましょう。
3. 歩道のないところでは、原則として右側通行で歩きましょう。
4. 道路の横断は、信号機に従い、信号機のないところでは左右に注意して渡りましょう
5. ゴミは持ち帰りましょう。また途中のポイすてなどは絶対にしないようにしましょう。

【問い合わせ】 菊池市教育委員会生涯学習課
TEL 0968-25-7232

制作・著作 熊本県県北広域本部

3.5kmコース

3.5kmコース
オプションコース

モデルコース

スタート ① 菊池武光公騎馬像 徒歩で5分 ② 将軍木 徒歩で10分 ③ 菊池神社 徒歩で15分 ④ 菊池武時公騎馬像 徒歩で5分 ⑤ 輪足山東福寺 徒歩で10分 ⑥ 菊池武重公墓所 徒歩で6分 ⑦ 菊池能運公墓所 徒歩で6分 ⑧ 菊池武光公墓所 熊耳山正観寺 徒歩で7分 ⑨ きくち観光物産館 菊池観光交流館 ゴール

Copyright:熊本県・市町村電子自治体共同運営協議会

A 御松囃子御能

懐良親王を慰労したことが起源とされ、中世の形態を保つ貴重な舞です。毎年10月13日の菊池神社秋季大祭で奉納されます。国重要無形民俗文化財。

B わいふー番館

「まちかど資料館」「まちづくり寄合所」の2つの施設で構成されており、まちかど資料館では郷土の偉人の資料などを展示しています。

C 頼山陽の詩碑(筑後川合戦の詩)

らいさんようのしひ

頼山陽は江戸時代の儒学者。15代武光が戦った筑後川の戦いの情景を詩に表しました。この一篇は人々を感動させ、維新回天の志士が愛唱しました。

D 雲上宮

くものへぐう

菊池神社の北の丘に、懐良親王と良成(ながなり)親王の居城があったと伝えられています。周囲王を名祀りするため昭和45年に建てられました。

E 孔子堂跡

こうしどうあと

21代重朝が菊池文教の奨励のために建立しました。当代随一といわれた高僧桂庵禅師を招き、孔子を祀る祭礼などを行いました。

F 隈部忠直観音堂

くまべただのぶのかんのんどう

隈部忠直は、19代持朝、20代為邦、21代重朝の三代に仕えた重臣で、孔子堂建設に貢献したほか、一万句連歌の会にも名を連ねています。

10kmコース

10kmコース
オプションコース

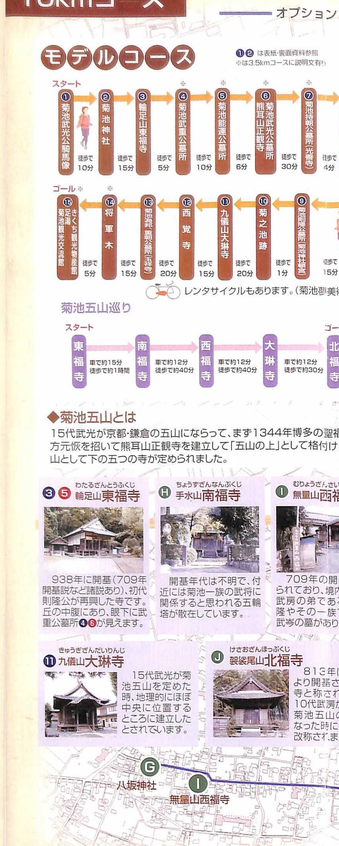
モデルコース

①⑫ は表紙・裏面資料参照
※は3.5kmコースに説明文有り

スタート ① 菊池武光公騎馬像 徒歩で10分 ② 菊池神社 徒歩で15分 ③ 輪足山東福寺 徒歩で5分 ④ 菊池武重公墓所 徒歩で10分 ⑤ 菊池能運公墓所 徒歩で6分 ⑥ 菊池武光公墓所 熊耳山正観寺 徒歩で30分 ⑦ 菊池持朝公墓所(光善寺) 徒歩で4分 ⑧ 北宮阿蘇神社 ゴール※

ゴール※ ⑫ きくち観光物産館 菊池観光交流館 徒歩で5分 ⑪ 将軍木 徒歩で15分 ⑩ 菊池武光公墓所 熊耳山正観寺 徒歩で20分 ⑨ 菊池武時公騎馬像 徒歩で15分 ⑧ 九曲山大琳寺 徒歩で20分 ⑦ 菊之池跡 徒歩で1分 ⑥ 菊池為邦公墓所(玉祥寺) 徒歩で15分

レンタサイクルもあります。(菊池郷美術館)



Copyright:熊本県・市町村電子自治体共同運営協議会

⑨ 菊池則隆公墓所(菊池神社頓宮)

大宰府高官だった初代則隆は、1070年に深川に居館「菊之城」を構えたとされます。守山城に移るまで、この居館を中心に領内の開発、歴代惣領の拠点としました。

⑩ 菊之池跡

「菊池」の地名は、この地に豊かな湧水地があり、この池が菊の花の形に似ていたことから菊之池と呼ばれたことに由来するという説や、池の周りに菊花が咲き乱れていたためとの説があります。

⑫ 西覚寺

1496年、22代能運の招きを受け、僧了善が建立しました。西周戦争で徳富重の本陣になったといわれています。

⑬ 菊池為邦、重朝公墓所(玉祥寺)

1452年20代為邦によって開山。寺内には菊池氏の文教を世に高めた為邦、21代重朝の墓があり、1760年、境内から掘り出され、その後再建したとされる梵鐘があります。

③⑤ 輪足山東福寺

938年に開基(709年開基説など諸説あり)、初代則隆公が再興した寺です。丘の中腹にあり、眼下に武重公墓所❹が見えます。

H 手水山南福寺

開基年代は不明で、付近には菊池一族の武将に関係すると思われる五輪塔が散在しています。

I 無量山西福寺

709年の開基と伝えられており、境内に10代武房の弟である赤星有隆やその一族でもある城武寺の墓があります。

⑪ 九曲山大琳寺

15代武光が菊池五山を定めた時、地理的にほぼ中央に位置するところに建立したとされています。

J 袈裟尾山北福寺

813年に最澄により開基され、永福寺と称されました。10代武房が中興し、菊池五山の一寺となった時に北福寺と改称されました。

⑦ 菊池持朝公墓所(光善寺)

肥後守護であった19代持朝は、将軍足利義教から、筑後守護職を与えることを条件に、豊後の大友氏と敵対し、肥後・筑後の守護として勢力を保ちました。3度目の若さで死去しました。

⑧ 北宮阿蘇神社

1375年に17代武朝が、説には1378年に16代武政が創建したといわれ、懐良親王が使用したと伝えられる軍配が残っています。

G 八坂神社(延寿太郎屋敷跡)

菊池氏に刀鍛冶として仕えた延寿太郎国村は、良質な砂鉄や用水、交通の便などからこの地に屋敷を構えました。延寿は田田貫と共に肥後における代表的刀工で、後に「菊池千本槍」を作りました。